

## 荒土地区座談会 議事要旨

○と き:平成 22 年 7 月 17 日(土) 19:00～21:00

○と ころ:荒土公民館

○テ ーマ:第5次勝山市総合計画

○出 席 者:55名

◎第 5 次勝山市総合計画について説明(未来創造課)

◎都市計画マスタープランについて説明(都市政策課)

Q1	<p>・小中学校再編に伴うスクールバスについて、荒土地区におけるスクールバスの台数は1台ぐらいの割り当てだと思う。いまの中学生の数が 70 名ぐらいなので、スクールバス1台では無理なのではないか？</p>
A1	<p>・スクールバスについては、道のりで中学校3キロ、小学校2キロという規定を基に台数を出している。中学校については、新中学校がいまの中部中学校の場所になった場合、中学生の利用人数としては30人ぐらいを想定している。</p> <p>また、小学校については、いまの北部中学校が北部小学校になった場合、小学生の利用人数としては30人ぐらいを想定している。あくまでも現時点での試算なので、詳しいことは今後よく検討していきたい。</p>
Q2	<p>・路線バスは、1日3回しか便数がない。部活動の後にちゃんと帰れるのか。バスの便数が少ないから利用者も少ないのではないか。</p>
A2	<p>・通学あるいは部活動の後のバスについては、不可欠なこととしてしっかり対応したい。通学路などの条件を見ながら子どもたちが安全に通学できるよう考えていく。</p>
Q3	<p>・高校はすでに再編が始まっている。したがって、中学校の再編は仕方が無いと思う。しかし、小学校の統廃合はあわててほしくない。小学校は、社会生活の一番の基本を身に付ける時期。例えば通学にしてもバスにしまうと、集団登校で、大きい子が小さい子の面倒を見るなど意義深いものが無くなってしまう。学校は登校するときから勉強だと思う。</p> <p>統廃合を進めるよりも、勝山から出て行く人を少なくする政策が先ではないか。</p>
A3	<p>・市内の小規模な小学校を見てみると、家庭的で地域に密着して、子どもたちが生き生きとして勉強している。ただ、複式学級等については、学校もいろいろ工夫しながらやっているが、やはり本来の姿ではない。小学校については1学年につき2クラス以上という考えがあり方検討委員会の最終報告で、示されている。こういった考え方を市として踏まえるべきであると考えている。一定の児童数があってこそ、しっかりと先生方の配置がしっかりでき、子どもたちもいろんな友達との交流のなかで社会性を身に付けられるのではないかと考えている。</p> <p>しかしながら、特に小学校については地域の財産、シンボルであるという意見も頂いているし、地域と一体となったものであるので、地域のみなさんのさまざまな意見をいただきながら進めていきたい。</p>
Q4	<p>・理想を言うと、やっぱりある程度人数があって刺激し合いながらという考え方は当然だと思う。ただ、勝山市全体で中学校を1校にすると、仲良し学級のように勝山市全体の教育レベルが低下しないか心配もある。なぜ、1校にしなければいけないのか？</p>

A4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山市内だけで競争しあうのではなく、隣の大野市もある、福井県の中で各自治体の中学校と競争、交流するという県内における切磋琢磨は必要だと思う。段階的に2校から1校という考え方はどうかということだが、まずは2校、あまり間をおかずに1校ということになると、非効率であり子ども達にとっても無駄なエネルギーを要してしまう。そのような観点から、中学校の再編については素案の1校がベストであると考えている。</li> </ul>
Q5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の再編については、部活動の選択肢の問題がある。子どもによっては希望の部に入りたいがために別の中学校に行くとも聞いている。しかし、中学校の問題の中で部活動の選択肢の問題が特に大きいのであれば、統廃合を考える前に部活動の時間だけ3中学校合同で交流をすればよいと思う。</li> <li>・また、1つの中学校になって、1学年が6～7クラスになると、子どもたちは詰め込み型になって大変だと思う。女子中学生が、遠くのバス停から帰るのは保護者が不安に思うのではないか。今も冬になるとほとんどの親は送り迎えしている。</li> <li>・新体育館は必要だと思うが、この素案では、まるで新体育館を作りたいために3中学校を1つにするということのように聞こえる。新体育館建設よりも、高齢者福祉などにお金を使ってほしい。</li> </ul>
Q6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体育館に人口が2万人割るときに15～20億円ものお金をかけて本当にそのような規模のものが必要なのか？国体を誘致するためだけの体育館なら必要ない。2万人の人口に沿う体育館の整備ならわかるが、</li> </ul>
A5・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部中学校は、平成元年からみれば生徒数はほぼ半減している。この先も少なくなることが推計で出ている。生徒数が減少することで、学校内の同じ学年のいろんな活動に支障が出てくる。教員の配置について、専門外の先生がちがう教科を持たなければならないことが現在でも起こっている。教員の配置体制、子どもたちが授業、部活動をいい形で進めるには一定の子どもの数が必要となってくる。</li> <li>・新体育館を建設するために中学校を再編するのかということだが、それは本末転倒であって、あくまでも小中学校再編は何年も前から検討している。そのような中、市民から要望の多かった新体育館建設についても国体を視野に入れながら、小中学校再編と一体的に整備していくということで素案を提示したということである。</li> <li>・新体育館は国体を誘致するためだけのものではなく、市民の各界の代表の方々で検討した結果、大規模なイベントやコンサート会場として、また、市民の健康増進の施設としてなど、市の活性化のために必要だということを要望書や体育館のあり方検討委員会中間報告でも頂いている。もちろん、建設経費は圧縮する努力も必要であり、既存の体育館の活用なども検討している。</li> <li>また、高齢者にやさしい施策についても充実していきたい。</li> <li>・勝山市の財政全般は、いま景気が悪く税収も落ちている中、決して豊かとはいえないが堅実であり、県内でも優秀な方と考えてもらってよい。今回学校の再編についても、まったく新しい用地を買って新築の学校を4つも5つも作ったり、体育館にしても新しい用地を買ってそこに総合運動公園を作ったりということになれば、当然勝山市の財政ではもたないかと思う。しかし、新体育館については、例えば福井国体においてバドミントン競技会場としたときには、いまある南部中学校の体育館を第2会場とか練習会場に使える。また、校舎を監督会議やミーティング会議、プレス発表会場に使えるなど、既存施設を活用したエコ開催も実現できると考えている。</li> </ul>

	<p>また、財政的な面からいえば、長尾山公園第1期事業などの借金返済あったが、返済のピークがちょうど去年今年ぐらいで、今後は大分落ちてくるということで、国の補助金活用や起債をもって世代間で少しずつ負担していくという形であれば、先ほど市から説明した内容の範囲内であれば財政的にやっていけると思う。</p>
Q7	<p>・市民アンケートの時には、まさか自分の母校のことを言っているとは考えていなかった。アンケート結果の数字そのままをみて、たとえば、50歳以上の半数の人が統廃合を望んでいるというふうに見るのは間違いだと思う。</p>
A7	<p>・市民アンケートの結果は、もちろん重要な判断材料と思っているが、しかし、それはひとつの材料であり、アンケートがこうだからそれをもって突き進むというわけではない。そのためにアンケート結果を示して、皆さんに意見を聞くということで地区座談会を開催している。また、今回の地区座談会のほかに、小中学校の再編に焦点を絞って、PTA、保育園、幼稚園の保護者の皆さん、さらには今後、小学校に入ってくる0歳児以上の保護者の皆さんも対象にした校区別の座談会も開催していく。重層的にたくさんのご意見をいただいて、この問題について練り上げていきたいと考える。</p>
Q8	<p>・スクールバスは無料としているが、これはずっと無料なのか。  ・また、小学校の再編は過疎化を加速させていくのではないかという懸念があるが、市としてどのように考えているか。</p>
A8	<p>・小中学校再編において、子どもたちの通学手段の確保は絶対条件である。当然ずっと無料としていく考えである。  ・また、小学校再編が過疎化を加速させるということだが、各地区コミュニティセンターの整備により、学校が終わったら子ども達は地域に戻り、地域の行事などにもしっかりと参加させていく。</p>
A (全体)	<p>小中学校の再編は、行革ではない。5～10年で見るとかえってお金がかかる。あくまでも基本は、未来の子どもたちのために何が良い教育環境なのかということと、あり方検討委員会の結果を踏まえて議論しているところである。北部中学校も平成27年には生徒数が132人になる。それらを踏まえて議論していきたい。勝山は、サービス産業が増えてきている。冬場だとスキージャンプという若い人の就業の場が確保されている。前回の統計では4,000人ぐらいの人が、勝山から福井へ仕事で出かけている。勝山には2,000人が働きに来ている。そのような中で、今後も働く場の確保を積極的に進めていきたい。</p> <p>新体育館については、建ててほしいという市民の声も多く、この総合計画の中に落とし込めないかということで議論しているところである。以前、ソフトバレーボール大会の全国大会を誘致した時に、勝山では開催が難しいということで大野のエキサイトをメイン会場、勝山はサブ会場として開催したという経緯もある。</p> <p>さらに、勝山市では夏場の誘客に向けてさまざまな施策を進めている。現在、成果が出てきている事業で、大学生の合宿誘致がある。今年度から学生に対する市の助成制度を開始した。さらに、県の補助メニューになったこともあって、この夏は、ニューホテルおよび市内の旅館などですでに延べ4,800人の方がスポーツクラブ等の合宿で勝山に来ることになっている。しかし、勝山の体育施設が十分かという点、残念なことに宿泊は勝山市だが、実際にスポーツをするのは大野市のエキサイトや永平寺町のグラウンド、体育館をお借りしている現状で、勝山では半分程度しか実施できていない</p>

	状況である。
--	--------

	このようなサービス産業をさらに拡大していく上でも、勝山の体育施設のあり方について今後検討していきたい。
--	---

以上